

I C T 活用レシピ特別支援学校編

レシピの中で紹介しているアプリ等は一例となります。アプリの利用を強制するものではありません。学校の実態に応じて御活用ください

Google™, Google ドキュメント™, Google スプレッドシート™, Google スライド™, Google フォーム™, Google Jamboard™, Google Meet™, Google Classroom™, Google Earth™ は、Google LLC の商標または登録商標です。
Windows, Word, Excel, PowerPoint, Microsoft Whiteboard は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
Keynote, Pages, Numbers, iMovie は、米国その他の国で登録された Apple Inc. の商標です。
なお、本文中には™マーク、®マークは明記していません。

I C T 活用レシピ特別支援学校編 目次

 教科・科目等	単 元 名	ページ	 活用場面
中学部 音楽科	器楽合奏 「音楽で仲間とつながろう」	1	C 4
高等部 教科別の指導	職業 「産業現場等における実習にトライしよう」	3	C 1
小学部 教科別の指導	体育 「器械・器具を使つての運動遊び」「器械運動」	6	C 1
中学部 教科別の指導	職業・家庭「育てたサツマイモを使って料理をしよう」	9	A 1、C 1
中学部 生活単元学習	「防災について学ぼう」	1 2	A 1、C 4
高等部 作業学習	木工班 「作業頒布会に向けて製品を作ろう」	1 5	B 1、C 1
小学部 生活単元学習	「学校探検をしよう」	1 8	A 1、C 1
小学部 教科別の指導	算数 2 段階「B 図形」	2 1	B 1、B 2
小学部 教科別の指導	国語 2 段階「平仮名を読もう」	2 4	A 1、B 1

中学部 「音楽科」



器楽合奏 「音楽で仲間とつながろう」

目標

- 合奏に必要な技能を身に付けることができる。（知・技）
- 楽器の特徴を活かしながら、曲想に応じた演奏ができる。（思・判・表）
- 主体的に仲間と協働し、共に演奏を楽しむことができる（学・人）

指導計画

	時	学習活動	◆指導上の留意点 ◇生徒の活動 ◎ICT活用例
決める	①	○発表曲の選曲	◇候補となる数曲の背景や成り立ち、演奏を聴かせてその曲に関心を持つ。 ◆選曲理由を明確にして、互いの意見を認め合いながら話し合う。候補曲の順番を決める。 ◆TV会議室システムを活用して交流校と話し合い、発表曲を決定する。 活用レシピ ◎TV会議室システムを活用して交流学校とつなげる。（話し合いの時間のみ）
	②	○受け持つ楽器の決定	◇発表曲で使用する楽器について、その特徴や演奏の仕方を理解する。 ◇各自で演奏し受け持てみたい楽器を選ぶ。
練習する	③	○個人・合奏練習	◇楽器の特性を感じ取り、基本演奏を身に付けるために練習を重ねる。 ◇曲の強弱やリズム、音の長さや切る部分を意識する。 ◇合奏練習では他者の奏でる音やリズム、音の大小に合わせる。
	④	○交流学校との合同練習 	◇交流学校に向けて演奏をし相手校の生徒から感想を聞く。 ◇交流学校の演奏を聴き、感じたことや、より良く演奏するために気づいたことを発表する。 ◆TV会議室システムを活用して合同演奏をする。 活用レシピ ◎TV会議室システムを活用して交流学校とつなげる。
まとめる	⑥	○演奏発表	◆発表に向けた各個人の目標を事前に確認する。 ◆交流学校と協力して心を合わせて演奏する。 活用レシピ ◎TV会議室システムを活用して交流学校とつなげる。
	⑦	○振り返り ○学習のまとめ	◇前回の発表の映像を見て、全体の様子や自分の演奏を振り返る。 ◇各自で感じたことを発表し、この授業で学んだことや成長したことをまとめる。

C 4

学校の壁を越えた学習（50分）

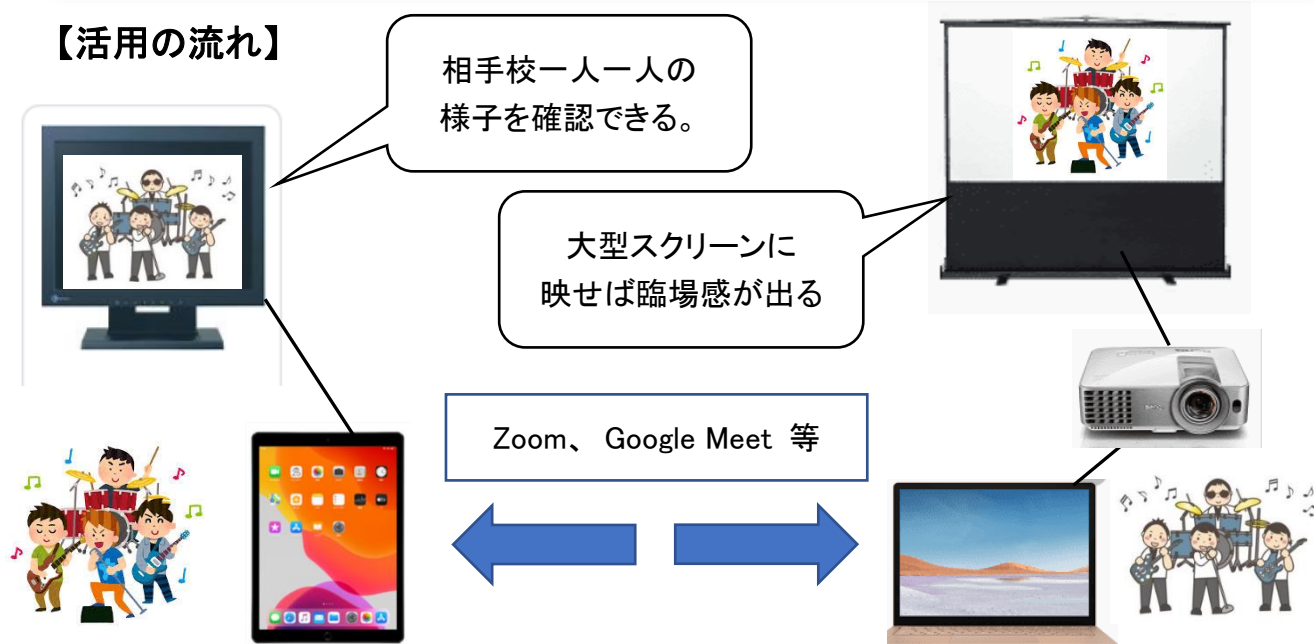
活用レシピ

◎TV会議システムを活用して交流学校とつなげる。

使用するアプリ等

- ・TV会議システム（Zoom・G Suite アプリ「Google Meet」）
- ・分身ロボット

【活用の流れ】



指導計画に応じて（○数字は指導計画の時数）

	手 順	ポイント
①	交流校との話し合いでは、発表する側と聞く側を明確に分ける等、ルールを守って参加させるようにする。	<div> <div>・自分の姿を見せたくない</div> <div>参加者がいる場合は右図にあるような分身ロボットが効果的である。</div> </div>
④	演奏を聴く時は集中させ、自分の感じたことを相手校に一人一人発表できるようにする。	<div>・合奏は音ズレに配慮し、互いの演奏を聴くだけでもよい。</div>
⑥	合同合奏の際は、お互いの演奏に合わせて行うようにする。	<div>・音のズレが気になる場合は、互いの演奏を録音しミキシングしたものを聴いてもよい。</div>

高等部 「教科別の指導 職業」

産業現場等における実習にトライしよう



目標

- 働くことへの理解を深め、社会人としての技能を身につける。（知・技）
- 夢の実現に向け、課題を見出し解決・実行する力を養う。（思・判・表）
- 社会生活に向けて、よりよく生活しようとする態度を育む。（学・人）

指導計画

	時	学習活動	◆指導上の留意点◇生徒の活動 ◎ICT活用例
知る・決める	①	○現場実習とは ○先輩卒業生からのエール	◆現場実習の目的と内容を伝え、生徒の意欲を高める。 ◇実際に社会で働いている卒業生からのメッセージビデオを見る。 ◇働くために必要な力を考える。
	②	○実習に向けてのレッスン1	◇あいさつの仕方や報連相について所作や振る舞いを具体的に練習する。うまくいくためのルールを設定する。 ◆少人数グループに分かれて練習の様子を一人ずつ iPad で撮影する。 ◇グループのメンバー同士で感想の意見交換をする。 活用レシピ① ◎iPad や専用アプリを活用して小グループ毎に自分や仲間の様子を見合う。
	③	○自己目標の決定	◇前回の授業の復習をする。 ◇現場実習における自分の目標を各自で決定する。
実践する	2週間	○各実習先での実践	◇個人目標を意識しながら各現場で実践を重ねるようにする。 ◇現場実習ノートを下に毎日の成長を確認する。 ◆実習の様子を一人ずつ iPad で撮影しておく。
振り返る	④	○実習後の感想まとめ ※PowerPoint 作成	◇各自で感じたことや反省点を PowerPoint にまとめる。 ※まとめ方は枠を作成し、文字や写真を入れればできるようにする。 活用レシピ② ◎現場実習ノートや iPad で撮影された写真を下に各自で報告会に向けた PowerPoint を作成する。
	⑤	○現場実習報告会	◇一人一人作成した PowerPoint を下に、感想を発表する。

C 1

発表や話し合い（40分）

活用レシピ①

◎iPad を活用して学び合いを深める。

使用するアプリ等

- ・ iPad
- ・ 挨拶用角度計測アプリ（例：シンプル角度計、カメラ分度器）

【活用のイメージ】



【気持ちのよいあいさつ】

【名刺の渡し方】

	手 順	ポイント
①	小グループ担当の教員が生徒の様子を iPad で撮影する。	・ 可能であれば、生徒同士で撮影できるとよい。
②	撮影した動画をお互いに見合い、自分自身や友達の様子を見る。 お互いの良いところや改善できる点を出し合うようにする。専用アプリで具体的な改善ポイントを確認させる。	・ 話し合いでは、友達の良いところから出し合うようにする。 ・ 友達からの意見を受け入れられるようにする。
③	まとめで、各グループの中から見本となる生徒を選び、全体の前で発表させる。どこが良かったのか感想を出し合い、好感度がもたれるポイントを再確認させる。	・ 事前にあいさつや報連相のルールを全体で再確認する。 ・ 必要によって iPad で見ながら確認する。

C 1 発表と振り返り（50分）

活用レシピ②



◎パワーポイントを作成することで自分の実践をまとめる。

使用するアプリ等

- ・ iPad
- ・ Keynote

【活用のイメージ】



	手 順	ポイント
①	教員が作成した見本の PowerPoint をみて作成の イメージを持たせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見本用の PowerPoint は予め 教員が作成しておく。 ・ PowerPoint の基本枠を各生 徒の iPad に入れておく。
②	一人一台の iPad で各自 PowerPoint を作成させ る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人目標を達成できたかとい う観点で自由に作成させる。
③	次回の授業に発表することをイメージしながら 動作確認までさせておく。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個性が出るように字の大きさ や色には制限を加えない。

小学部 「教科別の指導 体育」



器械運動「器械・器具を使っでの運動遊び」「器械運動」

目標

- 基本的な動きや技の難易度を高めることができる。（知・技）
- 自己目標を設定し上達のための工夫をすることができる。（思・判・表）
- 自ら活動に取り組み、他者の意見を受け入れることができる。（学・人）

指導計画

	時	学習活動	◆指導上の留意点 ◇児童の活動 ◎ICT活用例
決める	①	○サーキット体験	◇模範の先生をよく見てから跳び箱、マット、鉄棒体験を行う。 ◆各試技について、気を付ける点や器械・器具に取り組む際のルールを確認する。 ◆苦手さを感じている児童については、個別に支援する。
	②	○試技の記録と目標設定	◆少人数グループに分かれて各試技の様子を一人ずつ iPad で撮影する。 ◇各自で自分の動画を確認し、目標を設定する。
練習する	③ ④	○自己目標への挑戦 ○学び合いによる気づき	◇毎時間導入時において、先生による各試技の模範演技をみる。 ◇目標を下にグループに分かれて各試技に取り組む。各試技は時間で交代する。チェックシートを活用する。 ◆グループ毎に演技の動画を撮影、グループのメンバーで見合い、互いに良いところや改善すべき点を話し合う。 活用レシピ① ◎iPad や専用アプリを活用して小グループ毎に自分や仲間の演技を確認する。
	⑤	○中間発表会	◆中間発表会では、全体で各グループの代表者の様子を見合う。試技は録画する。
	⑥ ⑦	○自己目標の見直し ○技の獲得や上達のための工夫	◇中間発表会を受けて、自己を振り返り目標を見直しする。 ◆友達の良いことや上達するためのコツ、技を獲得できるようにする。チェックシートを活用する。 活用レシピ① ◎iPad や専用アプリを活用して小グループ毎に自分や仲間の演技を確認する。
	⑧	○全体発表会	◆発表時は、各試技の演技の様子を iPad で撮影する。 ◆本単元の 2 時間目の児童の様子と比較しながら一人一人の成長を確認する。 活用レシピ② ◎iPad で撮影した過去の映像と今回の映像を編集して見比べやすくする。成長ポイントに注目させる。
まとめる			

C 1

発表や話し合い（40分）

活用レシピ①

◎iPad や器械運動専用アプリを活用して学び合いを深める。

使用するアプリ等

- ・ iPad ・ 運動や動きを確認できるアプリ
（例：デジ体（光文書院）、水島宏一の器械運動アプリ（光文書院））

【活用のイメージ】

各グループの
様子を教員が撮影



結果をみんなで確認
して意見を言い合う。



	手 順	ポイント
①	小グループ担当の教員が児童の演技の様子をiPadで撮影する。	・ 可能であれば、児童同士で撮影できるとよい。
②	試技毎に撮影した動画をお互いに見合い、自分自身や友達の様子を見る。 目標を達成するために、お互いの良いところや改善できる点を出し合う。専用アプリで具体的な改善ポイントを確認する。	・ 話し合いでは、友達の良いところから出し合うようにする。 ・ 友達からの意見を受け入れられるようにする。
③	中間発表会には各試技の上達者を充て、中間発表会後にさらに気づきを高められるようにする。	・ より具体的に上達するコツがつかめるようにする。

活用レシピ②

◎ iPad を活用して過去の自分と現在の自分を客観視する。

使用するアプリ等

- ・ iPad ・ iMovie ・ Keynote ・ 電子黒板（投影用プロジェクター）
（2画面を同時に再生できるアプリ）

【活用のイメージ】



	手 順	ポイント
①	指導計画 2 時間目に録画した映像を iMovie や Keynote で編集しておく。	・ 各自の目標を考慮し、特に全体で確認したいポイントを取り上げて編集する。
②	発表会当日の様子を一人一人 iPad で撮影する。	・ 各自の成長が確認できるように撮影する。
③	当日に撮影した映像を時間内に編集する。一人ずつ過去の試技を放映した後、発表当日の映像を流す。 ※ 2 画面を同時に再生できるアプリを使用する。	・ 電子黒板を活用すれば、その場でコメントや評価マーク等を書き込める。 ※ 過去と現在の記録を同時に見比べられる。

中学部 「教科別の指導 職業・家庭」

「育てたサツマイモを使って料理をしよう」

目標

- サツマイモ料理を知り、料理に必要な技能を身に付けることができる（知・技）
- 調理方法を調べ、味・見た目を考えて料理をすることができる。（思・判・表）
- 仲間と協働し、共に調理や会食を楽しむことができる（学・人）

指導計画

	時	学習活動	◆指導上の留意点 ◇生徒の活動 ◎ICT活用例
振り返る・調べる	①	○収穫までを振り返ろう 【サツマイモ料理を探しにいこう】	◆学級園で育てたサツマイモの成長の過程を撮影した写真や動画を編集し収穫まで振り返ることができるようにする。 活用レシピ①
	②	○サツマイモ料理を選び料理調理方法を調べよう	◎動画編集アプリを使用し、サツマイモの成長の過程を振り返る。 ◇近くのショッピングモールに行き、サツマイモを使った和・洋・中料理を見つけ写真を撮る。 ◇料理アプリを使用して、サツマイモ料理を調べる。 ◆iPadを使用して、検索方法の手本を示す。
つくる	③	○サツマイモ料理を作ろう	活用レシピ② ◎大型モニターにiPadを接続し、料理アプリや検索アプリを紹介し、使い方を教える。 ◇アプリを見て、料理の工程を確認しながら調理する。
	④	○お互いの料理を食べ比べ評価し合おう ○次時に向け改善策を考える	◆文字理解が難しい生徒は、写真等の視覚支援を使用し手順を示す。 ◆食品を扱う時の衛生面や、調理器具等の安全な使い方が理解できるように手本を示す。 ◇料理の見た目や味を話し合い、次時に投票してもらうためにはどうしたらよいか話し合う。
評価してもらう	⑤	○お世話になっている先生方に料理を食べてもらい投票してもらおう ・調理 ・チラシ作り ・料理の提供	◇前時の反省を踏まえ、サツマイモ料理を作る。 ◆前時で話し合った、各グループの工夫・改善を示す。 ◇15人の先生を選ぶ。 ◆先生方の写真を用意し15人を選べるようにする。 ◇料理のチラシを作成し、セールスポイントを説明する。
	⑥		活用レシピ③ ◎料理のセールスポイントがわかるチラシをGoogle Jamboard、PowerPoint、Word等で作成する。
	⑦	○投票結果を聞こう	◎Googleフォームで投票してもらい、投票結果を大型モニターに映し振り返りを行う。 ◆集計アプリを使用して、投票結果がわかるようにする。

使用するアプリ等

- ・iMovie ・PowerPoint ・料理アプリ・G Suiteアプリ「Google Jamboard」
- 「Google フォーム」 ・電子黒板（投影用プロジェクター）

A 1

一斉学習

活用レシピ①

◎プレゼンテーションアプリや動画編集アプリを使用し、サツマイモの成長の過程を振り返る。

使用するアプリ等

- ・ iMovie
- ・ PowerPoint

【活用の流れ】



Google 等の検索サイトから、検索方法や、いくつかの料理アプリを紹介する。

学級園のサツマイモの苗植えから、収穫までの写真や動画を編集し、成長の過程を振り返ることができるようにする。



	手 順	ポイント
①	自分たちが育てたサツマイモの成長動画を見せ、収穫までを振り返る。 「苗植え」「水やり」「肥料」「除草作業」「収穫」等	・ サツマイモの成長の様子がわかるよう編集に工夫する。 注目させたいところや、確認したいところは、テロップや、アニメーション等を入れる。
②	iPad を使用して検索手順や料理アプリを紹介する。	・ iPad を大型モニターに接続し、検索手順がわかるようにする。

C 1

協働学習

活用レシピ③

- ◎料理のセールスポイントがわかるチラシを「Google Jamboard」や「PowerPoint」「Word」等で作成する。
- ◎「Google フォーム」で投票してもらい、投票結果を電子黒板等に映し振り返りを行う。

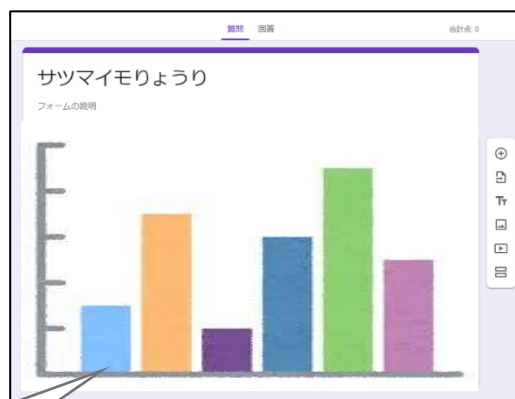
使用するアプリ等

- ・ G Suite アプリ「Google Jamboard」「Google フォーム」
- ・ PowerPoint ・ Word

【活用の流れ】



チラシを作り、料理を食べてもらう先生にセールスポイントを説明する。



アンケート集計アプリを使用して、見た目や味等を評価してもらう。

プロジェクターや大型モニターに接続し、結果を発表する。

	手 順	ポイント
①	作成したチラシと料理を持って、選んだ先生にプレゼンテーションし、投票してもらう。	・ iPad にチラシと、調理時の写真や動画を見せアピールできるようにする。
②	大型モニターに、料理を食べた先生の感想の動画コメントや投票結果を映し、単元を振り返る。	・ Google フォームを使用し、集計結果がすぐにわかるようにする。

中学部「生活単元学習」

「防災について学ぼう」

目標

- 災害について知り、身の守り方を知る。（知・技）
- 安全・安心の生活について考え、まとめることができる。（思・判・表）
- 仲間とともに防災に備え、生活できる。（学・人）

指導計画

	時	学習活動	◆指導上の留意点 ◇生徒の活動 ◎ICT活用例
知る	①	○避難の仕方を知ろう。 ・緊急地震速報の音 ・避難時の注意事項 「おかしもち」 ・避難の仕方 ・ルート	◇学校全体で行う避難訓練の事前学習として、避難するときに注意する事、避難ルートを確認する。 ◆教師が作成した避難動画をみて見通しが持てるようにする。 活用レシピ① ◎事前に避難の様子を動画で撮影し、避難の良い例・悪い例を紹介する。
	②	○避難訓練（第1回）	◆事前学習で学んだことが活かされたか確認する。
調べる・見つける	③	○学校内のハザードマップを作ろう。 ・避難ルートの確認 ・ハザードマップの作成	◇学校内を探検し、安全な避難ルートや避難する際に気を付ける箇所を写真に撮り確認する。 ◇撮った写真を使い、グループで話し合いハザードマップを作る。
	④		活用レシピ② ◎iPadのカメラでハザードマップの素材を撮る。 ◎印刷した写真を使い、模造紙にまとめマップを作成する。
	⑤	○作ったハザードマップを発表しよう。	
つながる	⑥	【オンライン防災学習】 ○消防署の施設・設備を知ろう ・消防車 ・はしご車 ・指令室 ・仮眠室 ・トレーニング室 等 ○消防士の仕事を知ろう ・出勤風景 ・指令室担当の役割 ・出勤署員の役割 等	◇オンラインで消防署員の話や施設設備の映像を見て消防署の仕事を知る。 ◆TV会議システム（Zoom）で学校と消防署をつなぐ。 ◆消防署にMTを配置し、MTが消防士に質問等しながら授業を進める。 ◆学校にいる教員STは消防署の様子を見ながらパソコン等の操作を行い、進行をサポートする。 ◆事前に360°カメラで施設・設備を動画撮影しておき、TV会議システムを使用し画面共有しながら、あたかも中継しているように臨場感のある説明を行う。
	⑦	○感想発表・お礼の言葉	活用レシピ③ ◎学校と消防署をTV会議システム（Zoom）でつなぐ。 ◎事前に360°カメラで動画撮影し、様々な角度で見せることで署内の施設・設備や署員の動き等を把握できるようにする。

使用するアプリ等

- ・360°カメラ
- ・TV会議システム（Zoom・G Suite アプリ「Google Meet」）
- ・電子黒板（投影用プロジェクター）

A 1

一斉学習（20分）

活用レシピ①

◎事前に避難の様子を動画で撮影し、避難の良い例・悪い例を紹介する。

使用するアプリ等

・ iMovie

【活用の流れ】



事前に避難動画を作成し、避難の様子のイメージがつかないようにする。



避難の様子の動画を見せて、避難の仕方の良い例、悪い例を確認できるようにする。

	手 順	ポイント
①	教員がモデルとなり、事前に撮影した避難の様子を流す。	・動画を流す前に避難の様子の良い所、悪い所を探すように声をかける。
②	もう一度同じ動画を流し、動画を止めながら避難の良い所、悪い所を確認する。	・動画に○×をつけて、良い所、悪い所がわかるように表示する。

C 3

協働制作（20分）×2

活用レシピ②

◎iPad のカメラでハザードマップの素材を撮り、印刷し、模造紙にまとめる。

使用するアプリ等

・ カメラアプリ

【活用の流れ】



撮った写真を、iPad のエアドロップ機能で交換できるようにする。

自分で撮影した写真を見せ合い、どこが危険なのか発表し、模造紙にまとめる。



	手 順	ポイント
①	学校内の危険だと思われる場所・物の写真を撮る。	・地震や火事が起きた時の危険個所を想定して写真が撮れるよう声をかける。
②	撮った写真を印刷し、模造紙にまとめる。	・撮った写真のどこが危険なのかが、説明できるように説明する。

C 4

学校の壁を越えた学習（４５分）

オンライン防災学習

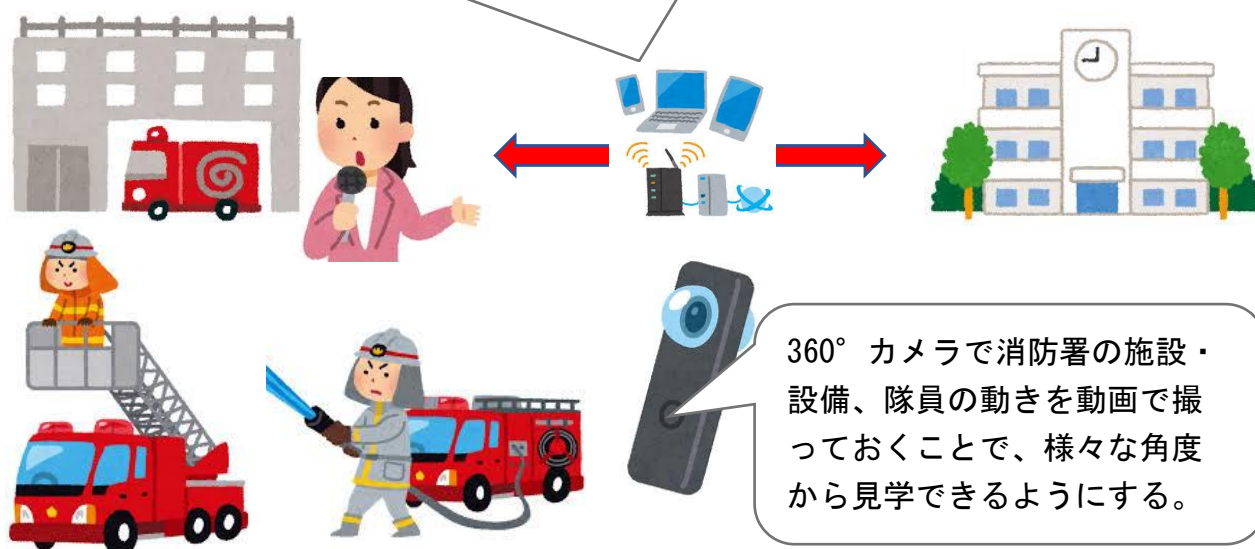
活用レシピ③

◎事前に 360° カメラで動画撮影し、様々な角度で見せることで署内の施設・設備や署員の動き等を把握できるようにする。

使用するアプリ等

- ・ 360° カメラ
- ・ TV会議システム（Zoom・G Suite アプリ「Google Meet」）
- ・ 電子黒板（投影用プロジェクター）

【活用の流れ】



	手 順	ポイント
①	TV会議システム（Zoom）で学校と消防署をつなぎ、中継する。	・ 消防署にMTを配置し、MTが消防士に質問等をしながら授業を進める。
②	事前に 360° カメラ動画で施設・設備を動画撮影しておき、TV会議システムを使用して画面共有しながら説明する。 ・ はしご車 ・ 指令室 ・ 出動風景	・ 学校にいる教員STは消防署の様子を見ながらパソコン等の操作を行い、進行をサポートする。 ・ 360° カメラ動画を流すことで、あたかも中継しているように臨場感のある説明を行う。

高等部「作業学習」木工班

作業頒布会に向けて製品を作ろう

目標

- 工具等の使い方を覚え、安全に使用することができる。（知・技）
- 作業目標を設定し、目標達成のために作業方法を工夫することができる（思・判・表）
- 与えられた仕事内容を最後まで責任をもって行うことができる。（学・人）

指導計画

	月	学習活動	◆指導上の留意点 ◇生徒の活動 ◎ICT活用例
安全な作業・自分の適性を知る	4・5	○木工班の決まりを覚える ○工具の名前、安全な使い方の把握	活用レシピ① ◎360°カメラやiPadカメラを使用し、安全作業・危険作業がわかる動画を作成し、動画を視聴しながら発見型授業を行う。 ◎使用する工具の安全な使い方動画を作成する。
	6・7	○工具のある場所の把握 ○全作業工程の体験（踏み台を作成） ○自分の得意な作業内容を把握	
つくる	9・10	【製品の作成】 ○挨拶・返事・報告 ○ヘルプの意思表示方法の獲得	◇作業量や時間の目標を立て、与えられた仕事内容に責任をもって行う。 ◆発語のない生徒や、意思表示が難しい生徒には「ヘルプカード」や「呼び出しベル」等で表現できるようにする。 ◆分業制を導入し、生徒一人一人の得意分野の作業内容を割り当て、製品としてのクオリティーを高め、分業にすることで生産性を高める。 ◆製品として、だれが担当しても、同じものが作れるよう、治具を作成し、活用できるようにする。 ◆1日の作業量を決められるよう本人と相談する。 ◆目標作業量を達成できるように、作業アプリを使用し、目標数と成果数がわかるように示す。
	11・12	○得意な作業内容の選択 ○治具の使い方の獲得 ○1日の作業量・数の設定	
販売する	1・2	○製品チラシの作成 ○接客方法の把握と演習 ○製品の販売	活用レシピ② ◎見通しをもって活動できるようにするため、「何を（作業内容）どれだけ（作業量）、どこまで（作業時間）を」アプリを活用し、視覚的に示す。 ◇製品の使い方や、おすすめコメントなど、お客様目線で考えチラシを作成する。 ◆模擬販売会を実施し、当日を想定して販売の練習を行う。

使用するアプリ等

- ・ iMovie ・ 360° カメラ ・ 作業内容、目標量確認アプリ
- ・ 電子黒板（投影用プロジェクター）

C 1

協働学習 発表や話し合い

活用レシピ①

- ◎360° カメラや iPad カメラを使用し、安全作業・危険作業がわかる動画を作成し、動画を視聴しながら発見型授業を行う。
- ◎使用する工具の安全な使い方動画を作成する。

使用するアプリ等

- ・カメラアプリ
- ・360° カメラ
- ・iMovie
- ・Keynote
- ・PowerPoint
- ・電子黒板（投影用プロジェクター）

【活用の流れ】



それぞれの作業動作や工具の使い方等において「良い例」、「悪い例」を提示する。

360° カメラで木工室の作業室全体を撮影したものを生徒が操作し、「安全」「危険」を自分たちで発見できるようにする。



	手 順	ポイント
①	事前に、工具の使い方の動画をみて、それぞれの工具の使い方を覚える。また、それぞれの動画に「良い例」「悪い例」を示し、どちらが正しいか判断できるようにする。	・ 工具の使い方がわからなくなったときはいつでも見れるようにしておく。
②	360° カメラで撮影した作業動画を操作し、危険な作業を発見し、どうしたら安全な作業ができるか考える。	・ グループ学習をすることで、話し合いを通して、安全な作業を考えられるようにする。

B 1

個別学習 個に応じる学習

活用レシピ③

◎見通しをもって活動できるようにするため「何を（作業内容）どれだけ（作業量）、どこまで（作業時間）を」アプリを活用し、視覚的に示す。

使用するアプリ等

- ・ 作業内容
- ・ 目標量が確認できるアプリ
（例：絵カードカウンター、絵カードタイマー）

【活用の流れ】



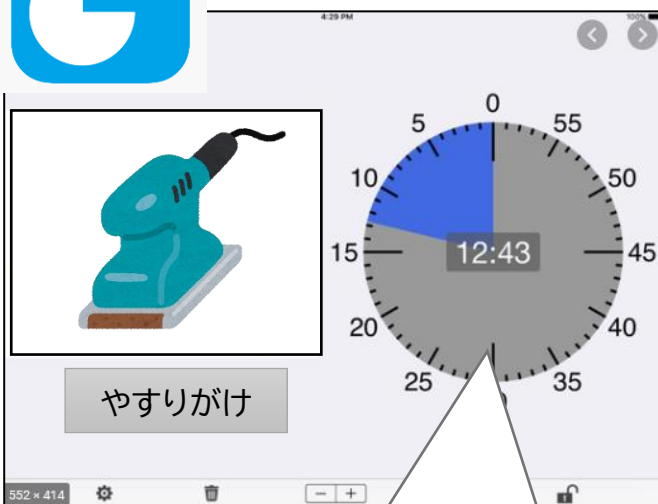
絵カードカウンター



目標作業量を○の数で示し、一つ終わったら○をタップすると消えていく。あとどれくらいやればいいのか視覚的にわかる。



絵カードタイマー



タイムエイドアプリを使うことで、終わりがわかるようにする。絵カードタイマーを使用することで何をいつまでやるのかがわかる。

	手 順	ポイント
①	授業の初めに目標作業量を決め、カウントダウンするカウンターアプリを使用する。	・ アプリを使用し、「作業量」と「終わり」がわかるように視覚的に示し、作業に見通しを持つことができるようにする。
②	絵カードタイマーを使用し、「何を」「どれくらい（時間）」やるのか絵カードタイマーを使用する。	・ アプリを使用し、「作業内容」と「作業時間」がわかるように視覚的に示し見通しを持つことができるようにする。

小学部「生活単元学習」

「学校探検をしよう」

目標

- 学校内にどのような施設や場所があるか分かる。（知・技）
- 探検を通して気づいたことを表現することができる。（思・判・表）
- 自分から調べたり、友達に教えたりする態度を養う。（学・人）

指導計画

	時	学習活動	◆指導上の留意点 ◎ICT活用例
つかむ	①	○目的地を知る。 (例) ・ 1 階 保健室 給食室 体育館 等	◆目的地の場所や目的地にあるものの名前を写真で撮影して分かりやすくする。 活用レシピ① ◎ホワイトボードアプリやプレゼンテーションアプリを活用し、目的地を写真で知る。
	②	・ 2 階 音楽室 プレイルーム等	
調べる	③	○学校探検をしよう。 (例) ・ 1 階 保健室 給食室 体育館 等	◆目的地にシンボルマーク等、児童が注目しやすいものを提示して分かりやすくする。 ◆タブレットで目的地の場所や、目的地にあるもの等をカメラアプリで撮影する。 活用レシピ② ◎カメラアプリを使用し、目的地の写真を撮影する。 ◎ホワイトボードアプリやプレゼンテーションアプリを活用し、撮影した写真を見て活動を振り返る。
	④	・ 2 階 音楽室 プレイルーム等	
	⑤		
まとめる	⑥	○学校の地図を作ろう (目的地にあるものを みんなで確認しよう)	◆位置関係の把握が難しい場合は、写真とシンボルマーク、担当する教員の顔写真等を結びつける。 活用レシピ③ ◎ホワイトボードアプリやプレゼンテーションアプリを活用し、撮影した写真と目的地を結びつけて地図を作製する。
	⑦		

使用するアプリ等

- ・ G Suite アプリ「Google Jamboard」
(Windows アプリ「Microsoft Whiteboard」)
- ・ カメラアプリ
- ・ 電子黒板 (投影用プロジェクター)

A 1 教師による教材の提示（20分）

活用レシピ①

◎ホワイトボードアプリやプレゼンテーションアプリを活用し、目的地を写真で知る。

使用するアプリ等

- ・ G Suite アプリ「 Google Jamboard 」
（Windows アプリ「Microsoft Whiteboard」）
- ・ Keynote

【活用の流れ】

事前に目的地の場所をカメラで撮影しておく。
写真での理解が難しい場合は、実物等を使いながら説明をする。

ほけんしつ

画面を拡大させて、目的地となる場所に何があるのか確認させる。

	手 順	ポイント
①	授業前に Google Jamboard に学校内の目的地となる場所の写真を取り込んでおく。	
②	写真と目的地の名前、関係するシンボルマーク等を一緒に提示して説明する。 どの授業で使うのか、何曜日に使うのか等	・ 写真を拡大させて、児童が分りやすくする。
③	探検カードとして、写真と名前（必要に応じてシンボルマーク）の入ったカードを作成する。 （写真をはさみで切る、のり付け等）	・ 次の活動に向けて、分かりやすいようにカードを作成する。

C 1 発表や話し合い（35分）

活用レシピ②

- ◎カメラアプリを使用し、目的地の写真を撮影する。
- ◎ホワイトボードアプリやプレゼンテーションアプリを活用し、撮影した写真を見て活動を振り返る。

使用するアプリ等

- ・ G Suite アプリ「 Google Jamboard 」
（Windows アプリ「Microsoft Whiteboard」）
- ・ Keynote ・ カメラアプリ

【活用の流れ】



カメラアプリを使用して、目的地の写真を撮影したり、QRコードを読み取ったりする。



目的地のシンボルマークとカードが一致したらシールを貼る。
（タブレットで丸を描く）



	手 順	ポイント
①	目的地の写真の名前を見ながら、目的地の場所を探す。	・ iPad に目的地の写真等を映しておく。
②	目的地の場所をタブレットで撮影する。 必要に応じて、シンボルマーク等があれば撮影する。	
②	前時で学習した写真と撮影した写真を比べてみて、同じであるか確認する。 QRコードを読み取って、正解画面が出ることで、正しくたどり着いたことを分かりやすくする。	・ タブレットで撮影した写真と比べさせる。 ・ QRコードを大きく印刷して撮影しやすくする。
③	同じで一致したら、作成したカードにシールを貼る。 （タブレットに丸をつける）	・ シールを貼ったり、丸をつけることで活動の見通しをもてるようにする。
④	すべての写真を撮り終えたら（場所の確認ができたなら）教室に戻り、撮影した写真を見て振り返る。	・ 写真だけではなく、目的地にあったものも一緒に確認する。

小学部 教科別の指導「算数」

2段階「B 図形」

目標

- 身の回りのものの形に着目し、集めたり、分類したりすることを通して図形の違いが分かる。（知・技）
- 身の回りのものの形に関心を持ち、形の性質に気付く力を養う。（思・判・表）
- 図形に関心を持ち、学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぶ態度養う。（学・人）

指導計画

	時	学習活動	◆指導上の留意点 ◎ICT活用例
つかむ	①	○これはどんな形？ 「丸、三角、四角」	◆形の性質に着目させ、形の性質に関心を持てるようにする。 活用レシピ①
	②		◎ホワイトボードアプリを活用し形を分類できるようにする。
調べる	③	○みのまわりにあるものをしらべよう 「丸、三角、四角」	◆身の回りにあるものの形に着目させ、形の性質に気付くことができる 活用レシピ②
	④		◎カメラを活用し、身の回りにあるものの写真を撮る。
	⑤		◎ホワイトボードアプリ活用し、身の回りにあるものの形に気付くことができる。
まとめる	⑥	○かたちをみつけよう 「丸、三角、四角」	◆校内の写真や絵、イラスト等から、自分たちで考えて形を見つける。 活用レシピ②
	⑦		◎カメラを活用し、身の回りにあるものの写真を撮る。 ◎ホワイトボードアプリ活用し、身の回りにあるものの形に気付くことができる。

使用するアプリ等

- ・ G Suite アプリ「Google Jamboard」
（Windows アプリ「Microsoft Whiteboard」）
- ・ カメラアプリ
- ・ 電子黒板（投影用プロジェクター）

B 1

個に応じた学習（20分）

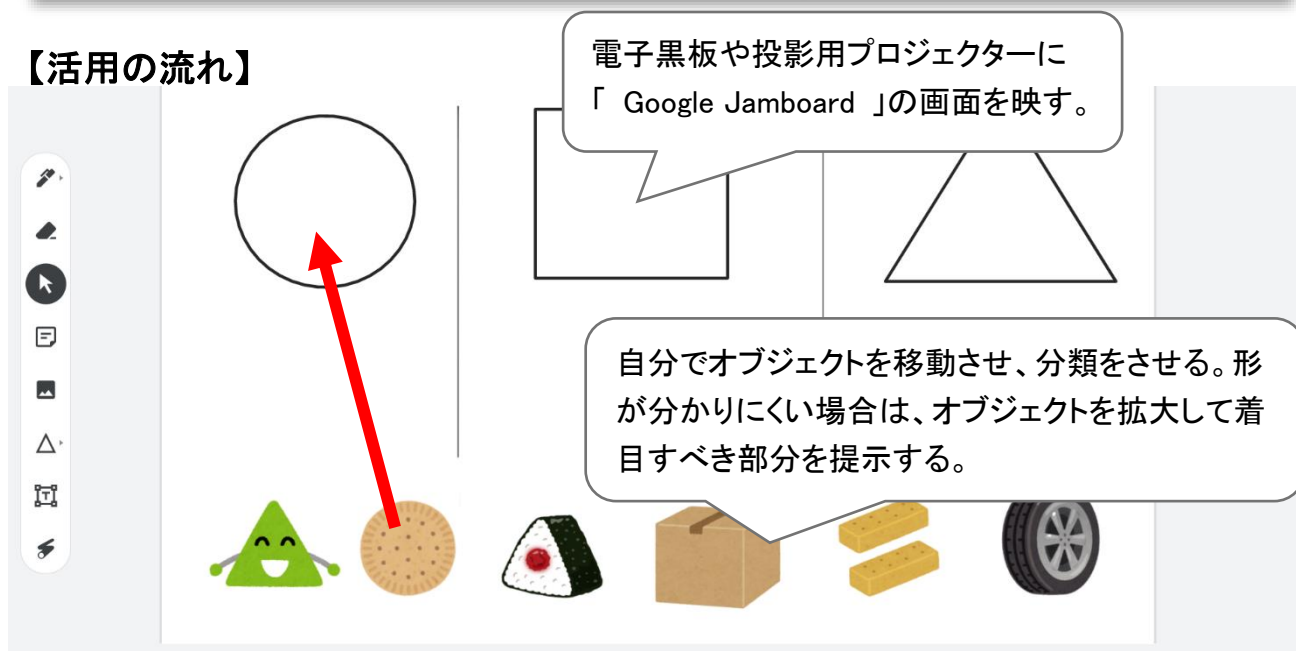
活用レシピ①

◎ホワイトボードアプリを活用し形を分類できるようにする。

使用するアプリ等

- ・ G Suite アプリ「 Google Jamboard 」
（ Windows アプリ 「 Microsoft Whiteboard 」 ）

【活用の流れ】



	手 順	ポイント
①	Google Jamboard を起動し、電子黒板や投影用プロジェクターで手元の iPad の画面を映す。	
②	それぞれのオブジェクトを移動させ、同じ形の枠の中に移動させる。 （白抜きのオブジェの大きさを調整し、ぴったり重なるような工夫もできる）	・ 児童の実態に応じて複数のフレームを準備しておく。
③	形の枠をペンでなぞる等、形の性質に気づけるようにする。	・ ものの大枠の形をとらえて、分類できるようにする。
④	立体のものを提示し、見方によっては、丸であったり、四角であったりするものもあることを確認する。	・ 立体のものを通して、形は様々であること、見方を変えたと形は変化する楽しさ、面白さに気づけるようにする。

B 2 調査活動（35分）

活用レシピ②

- ◎カメラを活用し、身の回りにあるものの写真を撮る。
- ◎ホワイトボードアプリ活用し、身の回りにあるものの形に気付くことができる。

使用するアプリ等

- ・ G Suite アプリ「 Google Jamboard 」
（Windows アプリ「Microsoft Whiteboard」）
- ・ カメラアプリ

【活用の流れ】

カメラアプリを使用して、学校内で気になるものを写真で撮る。

形の枠を示して、どの形に分類されるか視覚的に分かるようにする。

	手 順	ポイント
①	カメラアプリを起動し、学校内を回って、気になるものの写真を撮る。	・ なるべく1つの写真に1つのものを映すようにする。
②	撮影した画像を Google Jamboard に写し、どんな形に分類されるか調べて、確認する。	・ ペンや図形機能を活用し形の分類を分かりやすくする。
③	身の回りにあるもののなかには、いくつかの形が合わさってできるものもあることに気づかせる。	・ 同上の機能を活用し、分かりやすくする。

小学部 教科別の指導「国語」

2段階「平仮名を読もう」

目標

- 日常生活でよく使われている平仮名を読むことができる。（知・技）
- 教師と一緒に絵本などを見て、登場するものや動作などを思い浮かべることができる。（思・判・表）
- 言葉がもつよさに気付き言葉を使ってお互いに伝えあう態度を養う。（学・人）

指導計画

	時	学習活動	◆指導上の留意点 ◎ICT活用例
つかむ	①	○音のひびきを楽しもう ・文字の持つ音やリズムに触れる	◆児童の実態に応じて、文字数の少なく、文字とイラストがはっきりしている絵本を選択する。 活用レシピ① ◎ホワイトボードや電子黒板、アプリ等を活用し、絵本を拡大表示して分かりやすくする。
	②	・絵本を読む	
調べる	③	○平仮名を読んでみよう ・絵本の中に出てくる平仮名を読んでみよう	◆始めは文字の形が複雑なものは避けて、簡単な文字から取り上げる。（し、つ、もしくは自分の名前に含まれている文字） 活用レシピ② ◎アプリを使用して、発音を聞いたり、平仮名を並べ替えたりする。 ◎電子黒板等に拡大して映して分かりやすくする。
	④	・身の回りにあるものの名前を読んでみよう	
	⑤		
まとめる	⑥	○どれだけ読めるかな？ 平仮名クイズをしよう	◆文字の持つ音と時の字の形が一致できているか、確認しながら取り組む。 活用レシピ③ ◎アプリを使用して、発音を聞いたり、平仮名を並べ替えたりする。 ◎電子黒板等に拡大して映して分かりやすくする。
	⑦	○言葉を作ろう ・平仮名2文字 ・平仮名3文字	
	⑧		

使用するアプリ等

- ・教材を提示したり、自分で動かしたりすることができるアプリ（例：Finger Board Pro）
- ・G Suite アプリ「Google Jamboard」
- ・電子黒板（投影用プロジェクター）

B 1

個に応じた学習（20分）

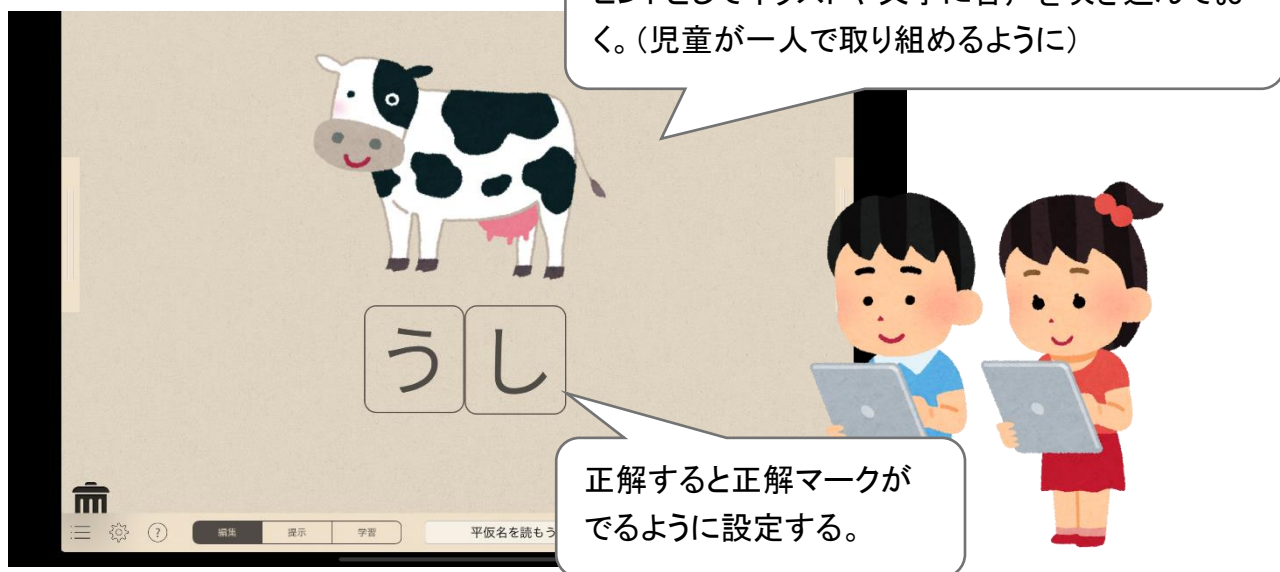
活用レシピ①

- ◎アプリを使用して、発音を聞いたり、平仮名を並べ替えたりする。
- ◎電子黒板等に拡大して映して分かりやすくする。

使用するアプリ等

- ・教材を提示したり、自分で動かしたりすることができるアプリ（例：Finger Board Pro）
- ・電子黒板（投影用プロジェクター）

【活用の流れ】



	手 順	ポイント
①	電子黒板や投影用プロジェクターでアプリの画面を映す。	
②	イラストをタッチして音声を聞くとともに、1文字ずつ音声と文字の形を一致させる。	・イラストや文字のオブジェクトに音声を吹き込んでおく。
③	児童の実態に応じて、形の難しい字や文字数を増やして取り組む。	・形が似ている文字（ぬ、め等）は拡大して文字の違いを示す。
④	始めは教員が操作するが、次第に児童が操作して取り組めるようにする。	

A 1

教師による教材の提示（30分）

活用レシピ③

- ◎アプリを使用して、発音を聞いたり、平仮名を並べ替えたりする。
- ◎電子黒板等に拡大して映して分かりやすくする。

使用するアプリ等

- ・教材を提示したり、自分で動かしたりすることができるアプリ（例：Finger Board Pro）
- ・電子黒板（投影用プロジェクター）

【活用の流れ】

	手 順	ポイント
①	電子黒板や投影用プロジェクターでアプリの画面を映す。	
②	イラストをタッチして音声を聞くとともに、1文字ずつ音声と文字の形を一致させる。 （トライアンドエラーで児童に操作をさせる）	・イラストや文字のオブジェクトに音声を吹き込んでおく。
③	文字の一覧表等を活用して、どの文字を読むことができたか確認する。	・形が似ている文字（ぬ、め等）は拡大して文字の違いを示す。
④	児童の実態に応じて文字数に対応した枠ではなく、枠を減らして1つにする等の指導を行う。	